

1923年陸上競技の1マイルレース(1600メートル競争)で、「空飛ぶフィンランド人」と言われたヌルミ選手(1897-1973)が4分10秒3という驚異的な記録を打ち立てました。「こんな記録が出るのは、人間の限界を超えている」と人々は驚きました。そしてあるスポーツ・ドクターは「これは人間が出せるギリギリのタイムであり、これ以上の記録は不可能である」と言いました。やがて、世界中の人々がこの見解を受け入れた時、この言葉は常識となってしまい、そこにはしっかりとした目に見えない壁ができたのです。「1マイル4分10秒3、これは人間の限界ギリギリの数字である。誰も破れない」そして実に31年間、ヌルミ選手のこの記録は破られませんでした。陸上選手やコーチの頭の中には、この言葉がしっかりと刻み込まれて、丁度コンピューターのプログラムのようにインプットされてしまったのです。ところが31年間破られなかった記録をイギリス人のロジャー・バニスター選手が4分フラットという記録を出して破ってしまったのです。世界中は驚きに包まれました。更に驚くべきことは、このバニスター選手が記録を破った同じ年に、23人の選手たちが、さらにバニスター選手の記録を破ったのです。そして、その後11年間に177回のレースで、100人以上の選手たちによって260回もその記録は更新されていったのです。更に、その壁が打ち破られることによって、その後10年の間に260回もその記録が更新され続けたのです。

私たちの中にある固定概念はすごく力があります。「もうできない。ありえない」と思っていればいつまでもその記録を破ることができませんでした。しかし1度誰かが記録は更新できることを示すとどんどんチャレンジして記録は更新され続けたのです。これと同じように私たちに生活にも固定概念があります。「人様に迷惑をかけるはいけない。恥をかき生き方はダメだ」とよく言われます。でも、人に迷惑をかけるで恥をかかない生き方ってどうやったらできるのでしょうか。ご飯を食べるとしてもその食べ物はどこかで誰かが作ってくれています。人に迷惑をかけるで生きていく中で「してはならないこと」を教えてください。この世は、人に迷惑をかけるなどと言って、して良いことに制限をかけています。この様に生きていくと誰かの指示がなければ動けない奴隷のように生き方になってしまうのです。

■ 良いこと！！～いけない事を理解する！！～

マタイ 19:17 イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方は、ひとりだけです。もし、いのちに入りたと思うなら、戒めを守りなさい。」ここでイエスさまは私たちになぜなのかを考える機会を与えてくださっています。この世は「How to(〇〇すれば××になる)」と法則化してその考えにそぐわないものは排除する傾向にあります。そうすると相手を指さして裁いて排除してしまいます。しかし聖書はこの様な法則化された決まり事は書かれていません。絶えず目の前に起こる物事にベストを尽くせる目をもつことを教えてくれるのです。その方法が「戒めを守りなさい」です。では戒めとは？出 20:2～18 に十戒が書かれています。十戒は私たちが生きる上でのガードレールのようなものです。これを大前提に生きれば何をしても良い…と教えてくれます。ガードレールは私たちが危険にあうのを防いでいます。聖書は私たちに自由を与えてくれました。ただし危険に合わないように「してはいけないこと」をガードレールとしておいてくれるのです。

■ ① どうなりたいか？？ どうなるのか？？ どんなことができるのか？？

私たちは、どうなるように神さまは創られたのでしょうか？幸せになるように…では私たちが幸せになるためには、自分に任された役割を全うすることが必要です。自分たちに任されていることは何ですか？きちんと目的が分かっているならば、神さまが用意してくださっている本当の幸せを得ることはできません。ですから考えてください。あなたはどくなりたいのですか？そして神さまがして下さった自分の望む姿と今の姿が違っていて「こうなりたい、神さまが与えられた自分の姿になりたい」と思うなら、「今は〇〇ですが××になりたいです。」祈り求めていきましょう。自分の姿を変えていく方法、生き方は自由です。ただし「してはいけないこと」がそれぞれにあると思いますので、それを守っていきましょう。そしてその「し

てはいけないこと」が守れるようになった自分は次にどんなことができるのかを考えていきましょう。

■ ② 壁を取る

自分には何ができるのか？を考えた時、劣等感や過去の記憶から「自分にはそんなことできない」と壁をつくってしまいます。だからその壁を取り除きましょう。エミール・クーエと言う哲学者は「心の底から出来ると思えば、どんな障害が生じて、必ずその目標を実現することが出来る。しかし、簡単なことでも自分からダメだと思ってしまう、それは到底越え難い高い山になってしまう」「今でもダメだったから、これからもダメに違いない」と勝手に決めて諦めてしまっていることはないか。自分勝手に見えない壁を作って挑戦を止めてしまっていることはないでしょうか。と言っていきます。また(ピリピ 4:13)「私は私を強くしてくださった方によって、どんなことでもできるのです」とあります。ですから壁を取っていきましょう。

■ ③ してはいけないこと以外は良いこと！！

十戒で「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があつてはならない」など神を大切にすることの次に書かれていることは(出エ 20:12)「あなたの父と母を敬え」です。両親を尊敬し、敬いましょう。「殺してはならない」隣人を肉体的殺人によってではなく人格的に排除してはいけません。「姦淫してはならない」「盗んではならない」「あなたの隣人に対し、偽りの証言をしてはならない」「あなたの隣人の家を欲しがってはならない」これらを守るためには自分の人生の中心が愛・神さまでなくてはできません。だから、自分の人生の中心が愛・神さまであって十戒が守れるなら、どんなことをしても良いと言っています。何をしてもうまくいくと言われていきます。たえず神さまの戒めを起点にして物事を見てください。そうすれば教会は自由になります。それぞれがそれぞれのカラーをもって神さまから任された役割を果たすことができるのです。

まとめ

(テトス 3:5～9) 神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました。神は、この聖霊を、私たちの救い主なるイエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みによって、相続人となるためです。これは信頼できることばですから、私は、あなたがこれらのことについて、確信をもって話すように願っています。それは、神を信じている人々が、良いわざに励むことを心かけるようになるためです。これらのことは良いことであって、人々に有益なことです。しかし、愚かな議論、系図、口論、律法についての論争などを避けなさい。それらは無益で、むだなものです。(ピリピ 4:8) 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。私たちは、すべての良いことに心を留めます！でも、心にしっかり「してはいけないこと」のガードレールを引いて安全を確保した上で聖書が与えてくださった自由・義のあ御霊によって歩んでいきます！！